

科学論文における 共著者の責任

県立県民健康科学大学長 土井 邦雄



アメリカや先端的な研究を行う国では、研究論文の著者と共著者は、研究の知的活動に実際に貢献した研究者だけに限られている。

しかし、日本では若い研究者が筆頭著者の論文であることが社会習慣だった時は、共著者として多数の研代がある。教授が実際に研究者がリストされ、著名な研究者が含まれている場合、指導せず「指導する研究者がある。そのような原稿の査読者が「内容があまりに雑拙であるが、著名な共著者は一体この原稿を読んだのか」という疑問が出る。査読者がこの著名な研究者を良く知っている場合には、査読者がこの著名な研究者を場の教授」は、指導し原稿を読む必要がなくなる。若

貢献しなければ排除を

理化学研究所の小保方晴子さんのSTAP細胞に関する論文の問題は、研究者だけでなく日本中の注目と関心を集めている。重要な疑問は、「STAP細胞は存在するのかわ」この研究には不正が含まれていたのか」「だれの責任か」「なぜこのようないことが起こったのか」などが起り、日本では、今まで無視され続けてきた「共著者の責任」の問題も関係している。

最近では、多くの英文の学会誌や科学ジャーナルでは投稿の必要条件として、知的活動へ貢献していること、原稿を読んだこと、最終原稿を承認したことなどを記述した書類に全ての共著者は署名し、社会的な責任を取ることが要求される。

本人に尋ねると、「原稿が投

い研究者は先輩を眺めて、同じことを繰り返す事もあ

一方、経験ある研究者の論文でも「原稿への知的活動の貢献がほとんどない上司や同僚」を共著者にする場合がある。上司によって

どい・くにお 早稲田大